

# 新河岸川 広域景観 プロジェクト便

vol. 9

2010年4月2日発行



彩の国 埼玉県



## 景観フォーラムを開催しました！

平成22年3月27日（土）に志木市民会館で「新河岸川広域景観プロジェクト景観フォーラム」を開催しました。景観フォーラムでは、これまでの2年間行ってきた、プロジェクトのまとめや新河岸川周辺で活動している人々の交流と今後の新河岸川の景観づくりを行っていく「新河岸川広域景観づくり連絡会」の立ち上げを目的に開催したものです。

このフォーラムを開催するにあたり、2月21日（土）にコアメンバーで準備会議を開催しました。どのような内容で良いか、また、今後のプロジェクトの活動についてどうするか議論を行いました。議論の中でプロジェクトを継続するための組織が必要という意見もでて、新河岸川広域景観づくり連絡会の立ち上げに向けて準備を進めてきました。

当日は、約80名の方が参加されました。参加者からは、「今後の活動の参考になった」「今まで知らなかったことが聞けてよかった」との声をいただきました。新河岸川広域景観づくり連絡会での取組の参考となりました。



### 新河岸川広域景観プロジェクトとは・・・

舟運で栄えた歴史ある新河岸川をモデルとしたプロジェクトにより多くの県民のみなさまが《景観》について関心を持ち、県民やNPOのみなさま、企業等と市、県が一体となり行動することで、埼玉の美しい景観を先導することを目的とします。

○美しい景観づくりに向けて、具体的な取組のアイデアを考え、どう実現させるか考えていきます。

また新河岸川の地域間の交流を図りながら取り組んでいきます。

○新河岸川の美しい景観をより多くの人に知っていただくためにPRを行っていきます。

### 新河岸川広域景観づくり連絡会について

(1) 目的：①景観づくり、情報発信等に取り組む②地域間の住民、団体の交流を図る

(2) 対象地域：新河岸川とその周辺の地域

(3) 取り組み内容：①つなげる（情報交換、団体間の連携した取り組み）

②広める（新河岸川の景観の紹介、PR）等③学ぶ（景観・歴史・文化を学ぶ）

(4) 構成メンバー：これまで新河岸川広域景観プロジェクトに参加していただいた団体、個人の方

(5) 発足日：平成22年3月27日





## ●川の風景の魅力

人の活動の痕跡が風景になります。川の風景は我がまちを対象として見つめ直す機会です。

川とまちのつながりを大事にする必要があります。川の広域というのは、川の流れる方向だけでなく、横断的に川とまちをつなげる意味でも言えます。

多自然型、親水型護岸整備は水の中に自然を呼び込み、町へその自然をどこまでとりこむかが重要になります。川の修復のポイントは人の活動の場所、人のいる痕跡を水辺でつくることで、人工的河川でもこれは実現できることです。

川の風景のテーマとして、「地形」「文化」「歴史」「人の活動」が考えられます。特に「地形」が重要です。新河岸川を例にすると斜面林が考えられます。川に見える面を景観に配慮して、人の目線から川が見られるようにデザインを考えます。



## ●川とまちの連携

川とまちの連携について、広島県京橋川では、都市再生プロジェクトで、河川区域内に特例措置として、オープンカフェや飲食店などに活用しています。川沿いに面する建築物外壁、屋外広告物などのデザインを決めたり、リバーフロント建築物等美観形成協議制度をつくったりしています。

## ●市民の活動の痕跡

地域のブランド化には、川にモニュメントを配置するのではなく、人々の活動の痕跡がランドマークになります。また、市民が使う場が景観の視点場となります。

道の駅あしがくぼでは、水辺のオープンカフェとして横瀬川とまちを眺める視点場として観光客だけでなく、地域住民の憩いの場となるように整備をしました。看板などの言葉ではなく、風景を通じて人にメッセージを伝えることも必要です。

## ●フィールドミュージアムと河川

エコミュージアムの概念は地域の発展に寄与することです。自分の住んでいる場所を大切にして、観光より生活環境の保全を重視しています。地域資源の発掘の強化をするためには生活密着型が良いです。社会基盤を中核にした軸を形成するとストーリーが立てやすく、新河岸川でも川を軸に進めていくのが良いのではないかと思います。

## 「新河岸川の舟運の河岸場と文化」



### 講演会後半

NPOゆめつるせ 小杉 武氏

新河岸川の舟運は川越から浅草まで荷舟が往復していました。荷舟には、畑作に使う肥料や米俵、醤油樽を積んでいました。

明治時代の頃、川では船遊びをして、女性は着物を着て、男性も正装をして、舟先には蓄音機もあり優雅な様子でありました。現在に船遊びを復活させても面白いと思います。

荷船が上流にのぼる時は「ノツツケ」と呼ばれる人が何人かで綱をひっぱって船を動かしていました。河岸場では温泉の湯を販売するなど舟運はいろいろな所で役割を果たしていました。

その後、鉄道ができましたが、船の方が鉄道より割安のため、輸送としてまだ使われていました。大正時代になると川の改修事業により、徐々に舟運が衰退していきました。



### パネリスト

## 「地域連携による新河岸川の景観づくり」

★パネリスト 武田侃造氏（かわごえ環境ネット）、小杉武氏（NPOゆめつるせ）、赤松祐造氏（和光市環境づくり市民会議・和光自然環境を守る会）、鳥飼定夫氏（埼玉県朝霞県土整備事務所）★コーディネーター 深堀清隆准教授

これまでのプロジェクトの感想や今後の新河岸川の景観づくりについて意見交換を行いました。団体の取組紹介では、川に鳥居を立てた後、水辺にゴミを捨てる人が減ったことや川の再生には哲学があるといった話がありました。

### ●プロジェクトに参加した感想について

「景観かわ歩きで自分の地域以外の発見ができた」、「景観サイクリングマップづくりでは、歩いたことで新河岸川の長い歴史が学べた」という新たな情報が得られたという効果がありました。

また、「昔の河岸場の位置が発見できたことや新河岸川の良い景観が活かされていない。川へ行くまでのルートが良くないので、そこが良くなれば人がそこへ呼び込める。」という、実際現地を見ないと分からない課題が今回のプロジェクトによって明らかになりました。

### ●今後の来年度以降の新河岸川の景観づくりについて

役割分担については、「新河岸川をきれいにするにはその周辺をきれいにする。」「自分たちからできるところからはじめていく。拠点になる場所をやって、周りの人に取組を知ってもらう。」「提言するには学習が必要で良い事例をみることが大事」という意見がありました。

広域連携について、「良好な団体の関係づくりをすることが大事で連携することでそれぞれの分野に専門の人がいるので、活動に幅がでてくる」というプロジェクトでやってきた団体間の連携が活かしていけます。



まとめでは、「市民参加がうまくできる工夫をすること」「船着き場を作って、**舟運を復活**させたい」という提言もありました。

最後に深堀先生から。「今後の取組を情報発信していくために、**問題意識の共有するためにテーマを絞ってストーリーを考えていく必要がある**」とコメントをいただき、今後の連絡会の活動の進め方についてヒントになるパネルディスカッションになりました。

## パネル展示

### 新河岸川周辺活動団体PR展

景観フォーラムの会場内では、新河岸川周辺で活動している団体の情報や日頃の活動写真を貼りPRをしました。参加者同士の交流を図ることができました。



## ★アンケートの結果

当日参加された方から貴重なご意見・感想をたくさんいただきました。

- ・地域振興は外部観光客だけでなく、地域の人のためであることを認識した。
- ・舟運と河岸場と文化の写真が面白かった。
- ・講演ではこれからの活動に良いヒントを与えてくれた。
- ・川に近づけるような環境が必要。
- ・深堀先生の講演は興味深かった。何か応用できるものがないか考えてみたい。
- ・より多くにメディアを利用して活動のPRをする。
- ・新河岸川と中心とした風景と住民のかかわりや、連絡会としてのコンセプトをつくる上で有意義であった。

## 新河岸川景観サイクリングマップが完成しました。

新河岸川景観サイクリングマップは、新河岸川とプロジェクト（景観の再認識、課題整理等）のPRを目的に作成しました。参加市民団体の皆様のご協力で現地調査を元にマップのたたき台をつくり、3月に完成しました。今回の景観フォーラムでマップの配布をしました。今後、行政窓口や関係する機関などに配布する予定です。



ご意見お待ち  
しています。

ホームページアドレス：<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/m04/>

埼玉県 都市整備部 田園都市づくり課  
景観・屋外広告物担当

電話 048-830-5367 (直通)

FAX 048-830-4879

Email [a5540-01@pref.saitama.lg.jp](mailto:a5540-01@pref.saitama.lg.jp)

